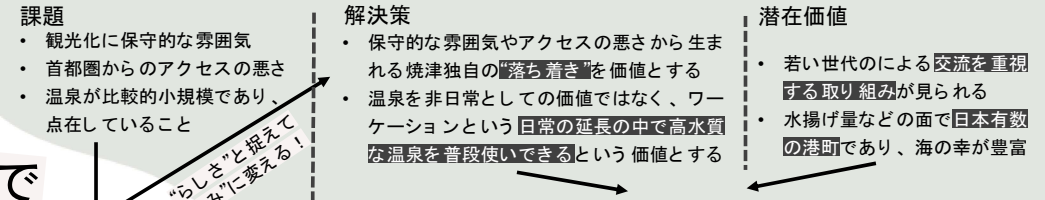


チーム名	たまわカルテット	大学名・学部	青山学院大学・総合文化政策学部	焼津ステージ
プラン名称	WANDO YAIZU ～立ち止まって考え、つながり、発見するまち～			
テーマ	「焼津温泉」を活かした持続可能な「観光まちづくり」			
リーダー名	本間風香	メンバー名	山口莉果、渡邊芽依、大橋錬太郎	
指導教職員名	川又啓子			

WANDO YAIZU

「焼津の課題＝らしさ」を“強み”に



なぜ焼津でワーケーション？

「らしさ」と捉えて「強み」に変える！

「ワーケーション×コミュニティ」

ターゲット：関東甲信越のリモートワーカー

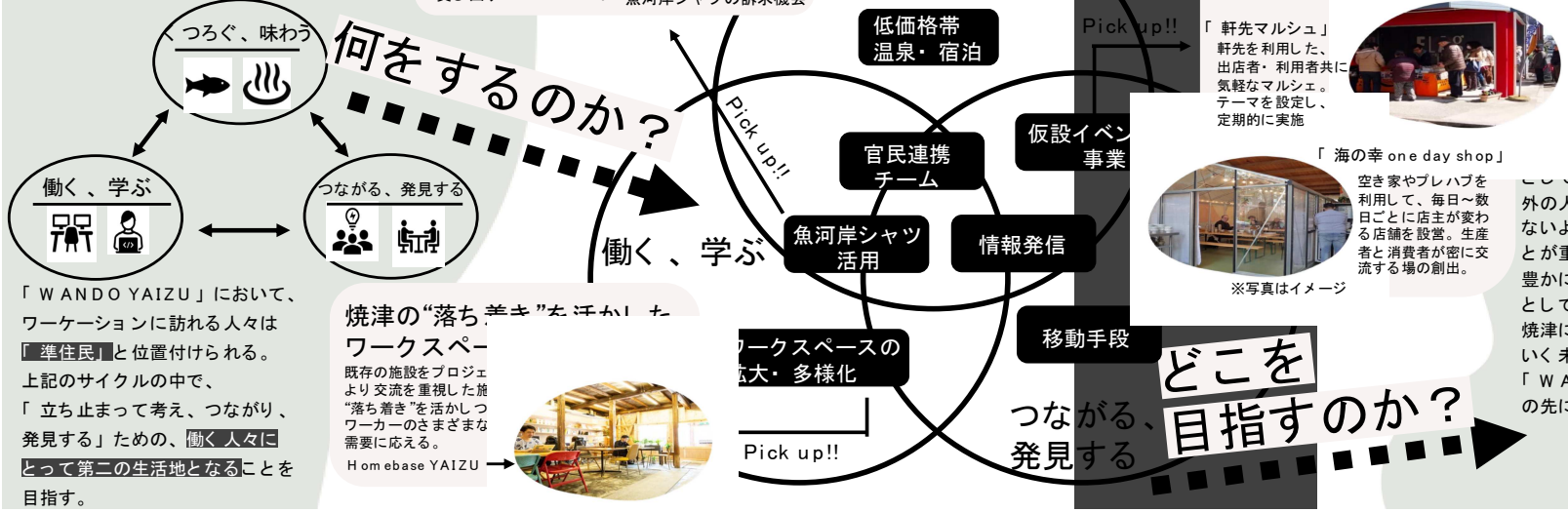
新規性

- ①ワーケーション需要を軸に温泉や水産業などの地域の潜在的な資産を束ねる包括的なプロジェクトであること
- ②焼津らしさを尊重し、地元民をはじめとした様々なステークホルダーへの配慮を重視していること

WANDO (湾処) とは、河川において本川とつながりつつも流れが緩やかで水が溜まっているエリアを指す。「WANDO YAIZU」は焼津がワーケーション地さらにはコミュニティと「湾処」となることで持続的な発展をすることを目標としたスモールスタートとしての包括的なプロジェクト。

立ち止まって考え、
つながり、
発見するまち。

プロジェクト 具体案

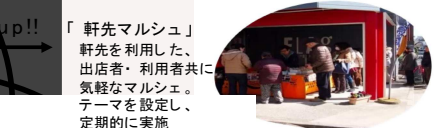


魚河岸シャツ＝準住民の仕事着

- 心理的に地域に馴染みやよくなる
- セキュリティ効果
- 魚河岸シャツの訴求機会

「駅前通りから“交流”と“更新”を」

周遊促進のためには多様な更新が求められる。これらを支えるためには、定期的・実験的に



※写真はイメージ

効果

- リピーター率の高い顧客の獲得による持続的な収益
- 地元資源の訴求機会や需要認知の機会の創造
- 空き家や空きスペースの有効利用
- 業界を横断した連携による相乗効果
- 将来的な移住人口の増加

津の未来

「暮らす」とは焼津に家を持つなどということではない。焼津で非日常としてではなく、日常に近い感覚で過ごすことを指す。外の人のために中の人が我慢しないために、反対に中の人だけで孤立しないようにするために、「外の人の中の人」同じ焼津が好きであることが重要だと考える。非日常を味わえる場所はたくさんあるが、日常を豊かにする第二の生活地はあまりないのではないだろうか。そんな場所として、焼津に魅力を感じ、焼津に関わる人が増えていく未来を私たちは「WANDO YAIZU」の先に思い描く。

「ずっと暮らす人、
たまに暮らす人、
はじめて暮らす人、
みんな同じ焼津が好き。」